はままつクリエイティブスイッチ　開催レポート
「身近なもので不思議な楽器を作ってみよう！」

開催日：2026 年 9 月 19 日（土）
会場：クリエート浜松　アトリエ
講師：創さん

打楽器奏者・楽器発明家として活動する創さんを講師に迎え、３種類の楽器作りに取り組みました。ラップの芯、風船、ストロー、飲料容器、バネなどを使い、作るだけでなく、音を出すための工夫も体験しました。

■身近な物が楽器になる！



最初に、創さんが空き缶とストローで音を出す方法を紹介。長さの異なる缶を使うことで、音の高さに違いが出ることを実演しました。さらに、複数の缶を組み合わせ、空気を送って鳴らす楽器を演奏し、身近な材料から楽器ができることを紹介しました。

■楽器作り１　ラップの芯と風船で、サックスのような音

楽器作りの１つ目は、ラップの芯に風船を取り付けた笛です。風船を切って芯にかぶせ、ビニールテープで固定。切った牛乳パックを鉛筆に巻いて細い筒を作り、息を送る部分にしました。音を出すには、風船をつぶして横に引っ張るなどのコツがあることを説明。創さんが作業を手伝いながら、音の出し方を確かめました。実際に音が出ると、参加者はおお！と驚き、楽しそうに音を鳴らし続けていました。
創さんは、長い芯では低い音、短い芯では高い音が出ると説明し、材料によっても音が変わることを説明しました。





■楽器作り２　ストローで鳥のような鳴き声を

２つ目は、太いストローと細いストローを使う笛です。太いストローに穴を開け、細いストローから息を吹き掛ける位置を調整して固定しました。少しずれるだけで音が出なくなるため、よく鳴る場所を探すことが大切だと説明。筒の両端を指でふさいで音を変える方法も紹介しました。





■材料を変えると、音も変わる

制作の合間には、硬さの違うビニールや気泡緩衝材を使った笛を紹介しました。筒を長くすると音が低くなることや、ラップの芯に切り込みを入れて打楽器にする工夫も、実際の音を聞きながら確かめました。参加者は、楽器の音が変わるたびに驚きの声を上げ、興味津々で聞き入っていました。



■楽器作り３　容器とバネで、不思議な音を聞く

３つ目は、飲料容器と柔らかいバネを組み合わせる「バネ電話」です。飲料容器の底に穴をあけ、バネを穴にしっかりねじ込んで取り付けたら完成です。参加者はバネを軽く伸ばして叩き、不思議な音を奏でていました。制作後には、シールやペンなどで飾り付ける時間も設けられました。

■最後は、手作り楽器で一緒に演奏

終盤には、空気を入れたペットボトルを叩いて鳴らす楽器を紹介。空気の量を変えて音階を作る工夫が説明されました。最後の演奏では、創さんの演奏に合わせ、参加者も、粒状のものを入れた段ボールをゆっくり動かして波の音を演出しました。楽器は買うだけではなく、身の回りのもので制作できることや、みんなで演奏することの楽しさを体験できるワークショップとなりました。

